

# 英語教育と日本文学の融合

## －『伊豆の踊子』を入り口にして－

進藤三雄

はじめに

- 1 求められるリスニング教材とは
- 2 英語吹き替え版邦画の特徴
- 3 『伊豆の踊子』の教材化
  - 3.1 作成手順
  - 3.2 授業の流れ
- 4 評価と考察
  - 4.1 A大学での評価
  - 4.2 所属大学での評価
- 5 まとめ

---

本稿は、2006年10月7日に西南学院大学で開催された「第8回映画英語教育学会九州支部大会」で口頭発表したものに加筆・修正を加えまとめたものである。

## はじめに

英語学習に対する学習者意識に関するある調査によると、中学2年生の32.6%の生徒が英語を嫌いな科目として選び、嫌いな科目の第1位になっている。高校生では、英語学習を「面白い」、「楽しい」と感じている割合は全体の3分の1以下であったという（高橋，1995）。そして現在、教育を取り巻く様々な要因が重なり合い、大学入学者の学力が年々低下傾向にあることは指摘されて久しく、それに伴い大学入学者の学力格差も進みつつある。これを踏まえ、現在各大学では入学者に対する導入教育やリメディアル教育といった取り組みがなされているところである。

このような状況の中で、英語学習が「面白く」「楽しい」ものであることを学習者に印象づけ、且つ学習者の知的レベルに合った学習教材を提供することは現在の英語教育において緊急の課題である。その取り組みのひとつに映画を使った授業というものが挙げられ、これまでも多くの実践報告がなされてきた。しかし一般的に映画（洋画）はリスニングに余り慣れていない大学初年次の学習者にとって理解するのが難しく、かえって学習上の負担となる場合も少なくない。これに対し英語版の邦画は洋画に比べ理解しやすく教材として優れていると言えるが、内容的に授業での使用に耐え得るような作品はそれほど多くない。仮に優れた作品があったとしても、英語は字幕のみで音声を提供されていないものが多く、英語の授業、特にリスニングを重視した授業で使用するには適さない。

本研究では、代表的な日本文学『伊豆の踊子』の邦画アニメに英語音声吹き込むことで英語リスニング教材としての条件を整え、実際に授業で実践することでそれが大学初級レベルの教養英語教育にとって有効な学習方法であることを述べる。

### 1 求められるリスニング教材とは

映画の英語を聞き取れるようになりたいという願いは英語学習者の永遠の願望である。その映画を英語教育に取り入れ授業を活性化しようという取り組みは、以前から英語教員の関心を集めてきた。筆者もこれまでに、“Limelight”, “The

“Sound of Music”, “It’s a Wonderful Life”, “The Karate Kid”, “Always”, “Rain Man”, “Forrest Gump”, “Never Ending Story”, “Stand by Me” 等の映画を授業に取り入れ、リスニング能力の向上を目指す取り組みを行ってきた（進藤、1992）。映画（洋画）を大学入門期の授業で利用する際のメリット・デメリットをまとめると表1のようになる。

表1 洋画を授業で使用するメリット・デメリット

| メリット   | デメリット  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語学習が楽しいものになる</li> <li>・ 明確な場面設定がなされている</li> <li>・ オーセンティックな内容である</li> <li>・ 異文化理解能力を身に付けさせることが可能である</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ スラングや難解な口語表現が多い</li> <li>・ 一般的に発話速度が速すぎる。</li> <li>・ 役者の訛が強い場合や発話が聞き取りにくい場合がある</li> <li>・ 全体の情報量が多い</li> <li>・ 文化的背景の理解のため説明を要する</li> </ul> |

洋画を英語の授業で利用するメリットは他の教育実践例を見てもほぼ意見の一致するところであるが、その中でも洋画は、間接的にではあるが音声と映像を通じて海外の文化に触れることができるため、外国語学習の大切な要素である異文化理解能力を高める取り組みとして有効であると言える（Koike & Pullin & Sandkamp: 2001）。

一方デメリットとして、洋画はもともと英語学習に作られているわけではないため、学習者にとって内容を理解するのが難しい場合が多いが、その理由として、口語表現やスラングが多用されているという点、また発話速度が初級学習者にとって速すぎて聞き取りづらいという点が指摘できる。この点については中・上級者にとっては自然なコミュニケーションに慣れるという点でメリットになると考えられるが、松田（2006）も指摘しているように初級学習者にとってはフラストレーションつながる恐れがある。また映画によっては俳優の訛が強いため発話が聞き取りにくい場合があることも初級学習者にとっては負担となる。

ここで、学習者にとってよりふさわしい学習教材とはどのようなものである

べきか考えてみたい。Krashen (1985) は第二外国語習得が効率良く行われるためのリスニング教材の条件として、理解可能なインプット、オーセンティックな内容、現実に近い状況を反映した授業活動を挙げている。また小張 (1995) は初級者のリスニング教材のレベルに関して、約70%位は内容が理解可能な教材を選択すべきだと指摘している。秋山は (2003) は「目標－実践－評価」を意識した授業を半期なり通年行った場合、学期末、あるいは年度末に目標とした事柄、実践した内容、収集した評価情報をもとに、その授業を総合的に検証する作業が必要であると述べ、次のような視点を挙げている。

- (ア) 学習者のレベルに相応しい目標であったか。
- (イ) 目標を達成するために相応しい活動であったか。
- (ウ) 学習者は十分に目標を達成していたか。
- (エ) 今後解決すべき課題は何か。

これらの指摘からもわかるように、英語教材として求められる重要な点は、その教材が学習者のレベルにふさわしいものであるべきだということであり、言い替えれば学習者に負担のかかる教材は避けるべきであるということである。

更に洋画を授業に使う際のデメリットとして、全体の情報量が多いこと、あるいは1作品が長いという点が挙げられる。このことについて瀧口 (1995) は、映画をただ見せるだけでも最低2時間、長いものだと4時間近くに及び、教科書の進度に追われている現場では、見せる時間を生み出すのが精一杯で内容に触れた丁寧な指導はできないと指摘している。確かに長い映画を授業で取り上げる場合それなりの時間を要し、カリキュラム上他に指導しなければならないことがある場合などは簡単には導入に踏み切れない。解決策として、どんな状況でも柔軟に対応できる比較的短い作品 (25分～50分程度) を取り上げることが望まれるであろう。

以上、洋画を授業で使用することは利点も多い一方で、内容と発話速度の面で学習者のレベルに合ったものであるかという重要な点で大きな疑問が残る。また映画の長さが長時間に及ぶという点も授業で使用しづらい側面であることを確認した。

## 2 英語吹き替え版邦画の特徴

映画を授業で活用する問題点を解決するひとつの取り組みとして、洋画ではなく英語版の邦画を授業で使う試みが考えられる。英語版の邦画には、音声は日本語のままで字幕が英語のものと、音声も字幕も英語のものがある。前者は海外で発売される実写版日本映画によく見られるもので、これらは速読や翻訳の練習には役立つかもしれないがリスニング教材としては適さない。一方後者には近年世界的に注目されている日本のアニメ映画に多く見られ、特にDVDの普及とともに多言語の音声と字幕を自由に選択表示できる環境が整っている。筆者もこれまでに“Spirited Away (『千と千尋の神隠し』)”、“Grave of the Fireflies (『火垂の墓』)”などを授業で使用してきた。このような作品はアニメ世代とも言える現代の若者には大変なじみのあるものであり、理解しやすいものであると言える。このような英語版邦画を授業で使う際のメリット・デメリットは表2のようにまとめられる。

表2 英語版邦画を授業で使用するメリット・デメリット

| メリット   | デメリット   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現が簡潔で理解しやすい</li> <li>・発音が明確で聞き取りやすい</li> <li>・全体の情報量が適量である</li> <li>・日英の表現の違いを日本語の視点を通して知ることができる</li> <li>・文化的背景を説明する必要がない</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・異文化理解のための情報が不足する</li> <li>・口元重視の視聴法が不可能である</li> <li>・自然な発話速度に慣れない</li> <li>・翻訳が原作と異なることがある</li> </ul> |

メリットの第1は言語表現が理解しやすいという点である。英語版邦画は一度日本語から英語に翻訳されたものが発話されているため、一般の洋画に多く見られるようなスラングや難解な口語表現も少ない傾向にある。このため学習者は自分の持っている語彙の範囲でもある程度理解することが可能であり学習負担が軽減される。第2のメリットとして発音が明確で、発話速度も適度であるという点が挙げられる。英語版邦画の台詞は専門の声優によって読まれるた

め、その発音は比較的聞き取りやすく、発話速度も初級学習者にとって適切であると言える。第3のメリットとして、全体の情報量が適量であるということが挙げられる。英語に翻訳される字幕には時間的な制約から文字数に制限があり、それに連動し英語の音声も一般の洋画に比べ短めで学習者の負担にならないものである。4番目のメリットとして学習者が日本語と英語の表現の違いを日本語の視点を通して理解できるという点が挙げられる。学習者はオリジナルの日本語の台詞を通して翻訳された英語に触れることで、日本語と英語の表現方法を比較することができる。つまり学習者は、映像の中の何気ない行動や情景を自分の日常の生活とオーバーラップさせ、それが英語ではどう表現されているのかを観察することで英語らしい表現とはどんなものかを知り、同時に日本語と英語の特質の違いや類似点を認識することができるのである。これは多賀(2002)が「ヒューリスティック (heuristic) な学習」と呼んだものと基本的に同じ考え方であり、日本語を英語に翻訳する際の勘を養ったり、異文化間コミュニケーションにおいて自己表現する能力を養成するという観点からも有益であろう。最後のメリットとして、邦画は洋画などとは違い作品の時代背景や文化的違いをこと細かに説明する必要がないということが挙げられる。先にも指摘したように、洋画を授業で使う場合、その作品の時代背景や固有名詞の意味など説明しないと内容の理解が十分できない場合も多く、その説明にある程度時間をかける必要があるが、邦画の場合はそのような必要も少なく、時間的節約につながる。

一方デメリットであるが、まず初めに挙げられる点は異文化理解のための情報が不足するという点である。例えば、洋画を使えばジェスチャーや話者の表情などを通して、様々な英語文化圏の非言語情報を知ることができるが、邦画ではそのような機会は奪われる。デメリットの2番目は口元重視の視聴法には向かないという点である。鈴木(1995)は口の動きを読み取ることで発音の理解度が70~80%向上すると述べているが、英語版邦画の場合は当然英語の発音と映像が異なっているためそのような視聴法には向かない。デメリットの3番目として、学習者は自然な発話速度に慣れにくいという点が予想される。英語版邦画の発話速度が遅いことは、学習者の理解を助けることでは有効だが、

一方でそれは学習者から自然な発話速度に慣れる機会を奪うことにもつながる。最後に、翻訳された英語がオリジナルの日本語と異なる場合があるという点を指摘しておく。これは単純に誤訳という場合もあるが、翻訳者が映画を見る人にとってわかりやすくするための配慮から原文の一部を削ったり、新たに加えたりする場合もよくある。

まとめると、英語版邦画を授業で用いることは、デメリットはあるもののそれを上回る多くのメリットを有し、特に教養レベルの初年次学習者にとって効果が期待できる教育方法であると予想できる。

### 3 『伊豆の踊子』の教材化

英語版邦画は一般的に90分を超えるものがほとんどであるため、時間的に余裕がないと授業で取り上げることは難しい。また塚越（1995）によれば、学生は飽きやすい性格をしていて、同じ作品を何度も授業で取り扱って欲しいとは思っていないという。塚越の調査によると、学生はひとつの作品を2～3回程度の授業で、それも名場面やハイライトシーンだけを見るのではなく作品の全てを授業で扱って欲しいと望んでいる。さらに一回の授業で使用するセグメントの長さは10分前後が良いと答えている学生が多かった。短編の映画であればこのような要求にも合致し得るが、そのような適当な素材は余り見当たらない。そんな中、有名な日本文学のシリーズがアニメ映画化され、その英語字幕版が海外で販売されていることを知った<sup>(注1)</sup>。このシリーズに含まれている作品は、『伊豆の踊子』、『舞姫』、『坊ちゃん』、『あすなろ物語』、『耳無し芳一』、『潮騒』、『高安犬物語』、『学生時代』、『路傍の石』などで、どれも学習者にとってなじみの深いものばかりである。各作品の長さは25分から長くても50分程度であり、短編でありながらも普遍的なテーマを扱っているため学習者に感動を与えてくれるものが多い。また筆者の担当クラスには社会人も何人か含まれるが、そのような学習者にとっても日本文学を扱った作品は受け入れられやすいと判断できた。また文学作品であるためト書きやモノログが多用されることが多いため、登場人物の微妙な心理描写の方法を知ることにもできる。更に日本文化独特の言い回しや方言などがどう英語で表現されているかを学ぶ良い機会にもつな

がる。

この日本文学シリーズの英語字幕版は海外で販売されているが、残念なことに英語の音声が含まれていないため英語のリスニング教材としては不適切である。以前に英語字幕のみで学生に見せたところ、「どうしても日本語音声で内容を理解してしまい英語字幕に集中できない」、「できれば英語音声で同じ作品を見たかった」といった感想が多かった。このような経緯から今回『伊豆の踊子』に英語音声を吹き込み、独自のリスニング教材を作成することにした。

### 3.1 作成手順

英語音声吹き込み作業を始めるに先立って、まずソフト配給元に対し趣旨説明を行うと同時に、今回の取り組みに関する了解を得た。教材作成の一連の作業手順は図1のようになる。まず英語字幕をテキスト化する必要があるが、DVDからの字幕の取り込みはスクリーンプレイ出版の「Caption DVD」を使用し、コンピュータにテキストファイルとして取り込む。その後、英語話者がアフレコしやすいように登場人物ごとに台詞を台本にまとめ、読む際の声の大きさや笑いなど、こちらの要望があれば記録する。今回は経費・人員等の都合から計4

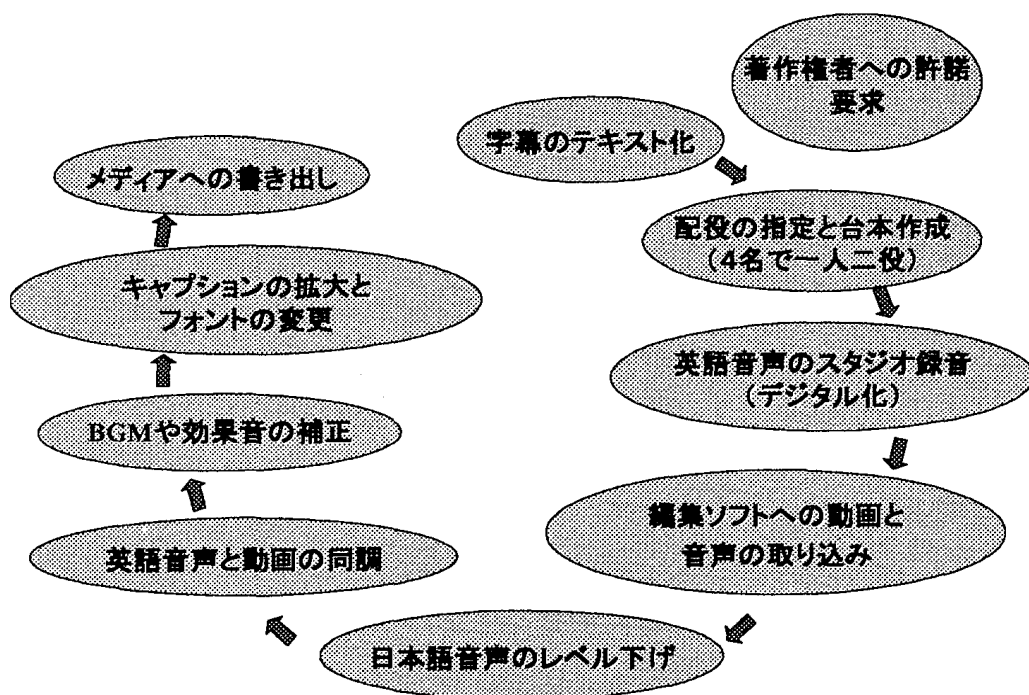


図1 教材の作成手順



名（男性2名、女性2名）の声優に録音に加わってもらい、場合によっては一人二役以上で依頼した。録音は外部音を遮断するために専用スタジオで行い、できあがった音声はデジタル形式（WAVやMP3）で保存してもらった。画像と音声の編集作業であるが、まずオリジナルの字幕無し映像データはビデオキャプチャーを通してMPEG2形式に変換され、コンピュータ上の動画編集ソフトへ貼り付けられることになる。今回は編集ソフトに「Adobe Premiere Pro 1.5」を使用した。Premiere Pro 1.5の編集画面は、素材一覧、素材編集モニター、画像編集モニター、タイムラインなどに大きく分けられ、タイムライン内のトラック上には音声や動画クリップを好きなだけ貼り付けることができる。また、それぞれのクリップの長さや音量は自由に調節することが可能である。今回は英語スクリプト、オリジナル映像、日本語音声、英語音声等のクリップがそれぞれのトラックに配列されている（図2）。



図2 動画編集画面

編集は、まず英語音声の邪魔にならないように日本語の台詞部分の音声レベルを下げる作業が必要である。例えばスクリプト番号137から142は主人公水原が踊子薫に櫛を買ってあげると約束するシーンだが、まず日本語音声トラック上でその部分の音声波形を探し、音声レベルのノード（ボタン）を下げることで日本語音声出力を停止する（図3）。その際、自然な吹き替えになるように台詞と台詞の間、あるいはひとつの台詞の途中でも間が空く場合などは、その部分だけ音声レベルを元に戻すことで可能な限り BGM や効果音などを残し原音に近い状態を維持する。また、場合によっては補正のための音声クリップを別のトラックに加えるなどの操作も必要であろう。

|     |           |                    |  |
|-----|-----------|--------------------|--|
| 137 | Mizuhara: | 下田へ行ったら買ってあげようか。   | I'll get one for you when we get to Shimoda.             |
| 138 | Kaoru:    | 本当。                | Really?  |
| 139 | Mizuhara: | ああ。                | Yeah.  |
| 140 | Kaoru:    | うれしい！でも、いいです。      | Thank you. But that's all right.                         |
| 141 | Mizuhara: | どうして。              | Why not?   |
| 142 | Kaoru:    | だって、悪いもの。          | It wouldn't be right.                                    |
| 143 | Mizuhara: | 悪くなんかない。買ってあげたいんだ。 | There's nothing wrong with it. I want to buy it for you. |



図3 音声レベルの調整

次に英語音声と英語字幕をひとつずつ動画と同調させながら貼り付ける。この際、オリジナルの字幕は小さくて読みづらいので44ポイント程度に拡大して認識効果を高める必要がある。これは、25インチ程度のモニターが2台しかないような教室で授業をする場合、字幕が小さいと教室後方の学生にとって文字認識が難しくなり、それが学習意欲を損ねるという事態を避けるためである。また背景の映像がどんな色であっても学習者が文字認識しやすいように、字幕のストロークは黒のエッジを効かせた白抜きにしたほうがよい。

一連の作業が終わった段階でレンダリングを行い、タイムラインで編集したシーケンスをWMV形式などで書き出し、DVDやビデオテープなどのメディアに保存する。

### 3.2 授業の流れ

本教材を使った授業は2大学の教養英語クラスで実施された。授業時間は1コマ90分であるが、他にも実施しなければならないカリキュラム上の制約もあるため、1回の授業で映画に費やす時間は45分程度に限定した。これは90分の授業を1種類の授業内容で実施すると学習の興味が持続しないという理由にもよる。全体のシーンは3回に分けられ、1回の授業で扱う映像シーンは10分程度にした。

大まかな授業の流れと所要時間は図4のようになる。Pre-listeningで使用するワークシートは、学習者がまず日本語の台詞を読んでそのストーリー展開を理解し、それに合わせて英文翻訳の空所に適語を入れる形式のものである。空所を選ぶポイントとしては、文法的に日本人が間違えやすい箇所、そのまま英訳すると日本人英語になりそうな箇所、英語独特の言い回しや連語などを中心に選定した（資料1）。特に学生が苦手とする文法項目においては、その定着を図るため、動詞などはその基本形だけを選択肢に示しそれを適当な形に変化させる作業を要求した。例えば冒頭部分は主人公の回想シーンで始まり、過去完了進行形が使われているが、学習者はまず選択肢から“travel”を選択し、更に現在分詞に変化させるわけである。このような文法項目はそれ自体の練習をしてもなかなか定着しないが、具体的な文脈での実例に触れることでその文法項目

の持つ本来の意味や機能が理解できるものと期待できる。

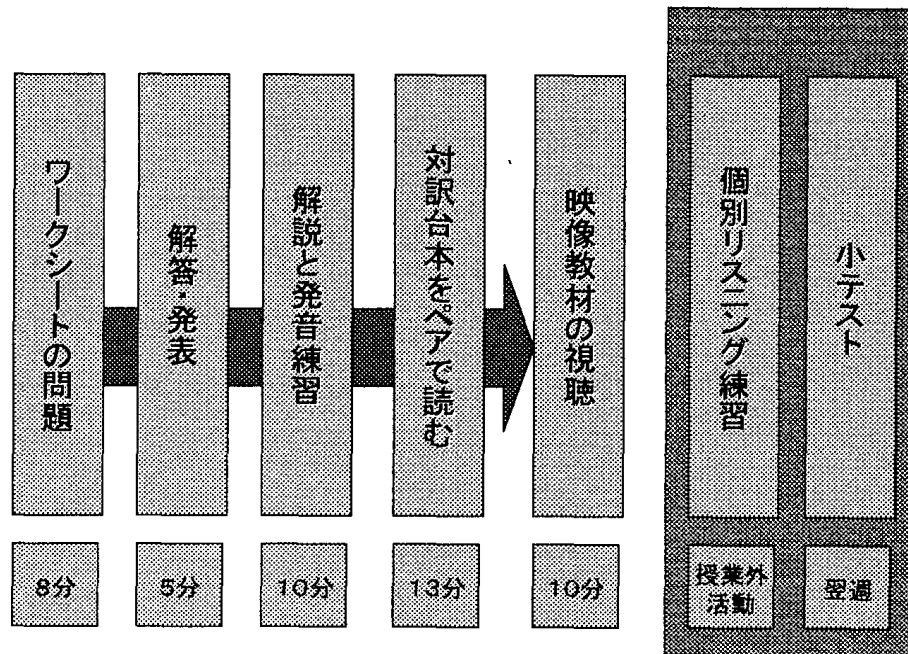


図4 授業の流れ

Monologue: 一人伊豆の旅に出てから4日目。 I'd been ( ) through Izu for four days. I was filled with wonder and anticipation  
 私は今ひとつの期待に胸をときめかせて道を急いでいた。もしかしたら天城七里の山道で、あの旅芸人の一行に会えるかも知れない。そんな自分の勝手な期待であった。  
 as I ran. Would I catch up with the minstrels, just ahead of me? I hoped so.

ワークシートの解答を確認後は、日本語と英語の対訳をペアで読み合わせて内容の確認を行う。その後映画を視聴するが、その間ディクテーション等の作業は行わない。その理由として、センテンス毎に区切って映画を見ると映画そのものに集中できず感動が薄れるからである。それよりも事前に十分シナリオを読み内容を理解した上で映画を鑑賞するほうが新鮮味があり、ある程度は自分の力で英語が聞き取れたという達成感も味わえるであろう。聞き取り練習が必要な場合には CALL 教室などに音声データに保存しておけばいつでも個別学習が可能である。また更なる表現の定着を図るため翌週の授業で簡単なクイズなどを実施してもよい(資料2)。

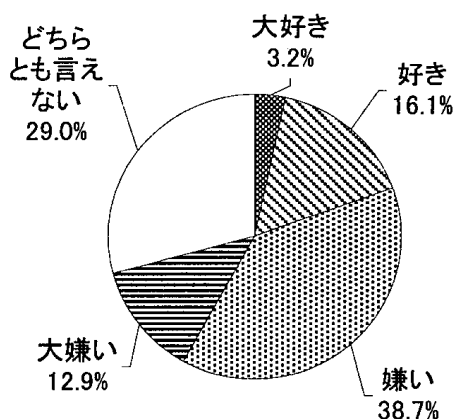
## 4 評価と考察

今回作成した教材を使った授業は、筆者が非常勤で担当しているA大学の1年次（社会科学系学部）と、筆者の所属する大学の1, 2年次（総合管理学部）の教養英語クラスで実施された。実施時期は4月で、実施後にアンケート形式で学生から感想を聞いた。

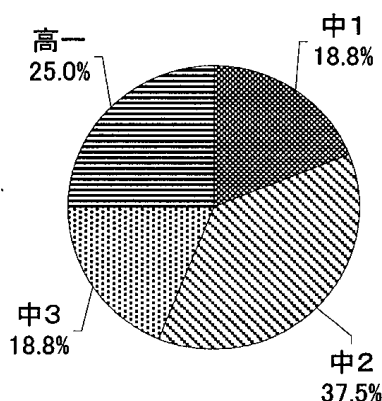
### 4.1 A大学での評価

A大学では4月の入学時に英語学習に対する意識調査を行った（次ページ参照）。対象人数は30名で、男女比は、男:19女:11である。まず「英語が好きか嫌いか」という質問に対して、「英語が嫌い」と答えた学生は半数以上にのぼり「英語が好き」の19.3%と大きな差がある。また「いつ嫌いになったか」という質問には、中学2年時が一番多く、次いで高校入学時であった。中学2年時に嫌いになった数が多い理由としては、この時期は中学入学時の英語学習に対する新鮮な気持ちが次第に薄れ始め、また英語学習の内容も徐々に高度になる時期であることが関係しているようである。いずれにせよ、高校2, 3年と答えた学生が皆無であることから、英語嫌いはかなり早い段階から始まっているということが伺える。また中学・高校での「英語学習は楽しかったか」という質問に対しても「つまらなかった」と答えた学生は半数近くに達し、「楽しかった」と答えた学生は16.2%にとどまっている。一方で「英語は今後の人生で大切なものか」という質問に対しては9割の学生が何らかの意味で「大切である」と答えている。このことは、彼らの多くは英語学習に対して何らかの苦手意識を持ってはいるものの、英語学習の必要性をある程度は感じているということを示しており、もう一度英語を基礎から楽しく学びたいという願望の裏返しと捉えることができるのではないだろうか。

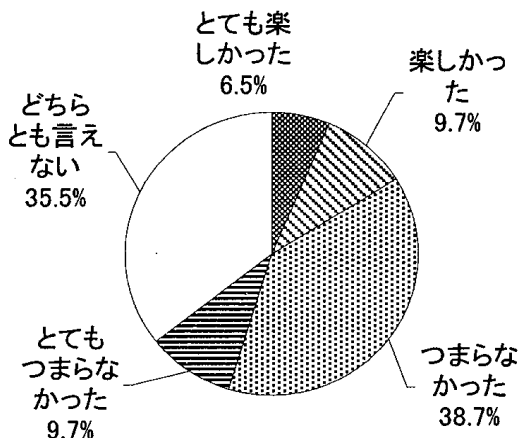
英語が好きか嫌いか



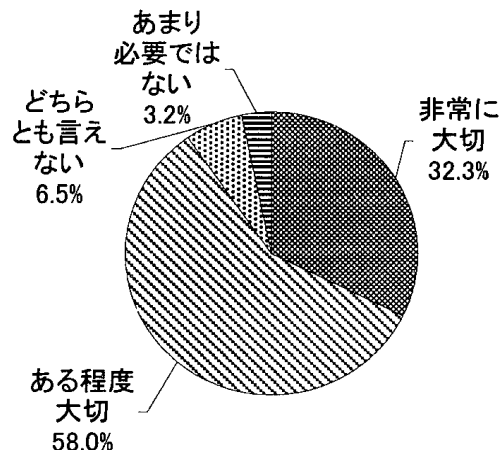
いつ嫌いになったか



英語学習は楽しかったか



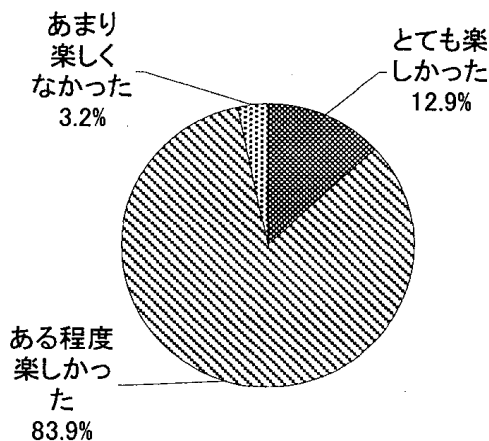
英語は今後の人生で大切なものか



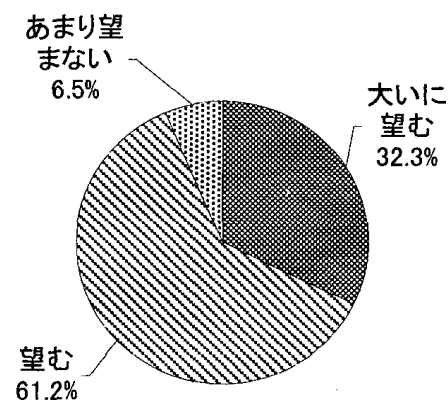
次にこのクラスで『伊豆の踊子』を使った授業に対する学生評価を見る（次ページ参照）。まず「このような授業は楽しかったか」という質問に対して、9割以上の学生が「楽しかった」と答えた。また、ほとんどの学生が今後も「このような授業を希望する」と答えた。授業の効果についても、9割の学生がこのような授業はリスニング力の向上に役立つと答えた。教材のレベルに関しては、「少し難しい」と答えた割合が「ちょうど良い」と答えた割合を若干上まわったが、これは彼らが今までにこのようなリスニング中心の授業を受けてこなかったことが原因として考えられる。しかし、リスニング教材は学習者のレベルの少し上のものを選択すべきであるという Krashen(1985)の“Comprehensible Input”の考えからすると概ね適切であると判断できる。かえって洋画などの、よりレ

ベルの高い教材をこのクラスで使用した場合、学習者の大きな負担につながる可能性があることを示している。以上、本教材は英語学習に対してどちらかというと苦手意識を持つ学習者が多い集団においても、学習に対する動機付けという面から十分効果が期待できると考えられる。

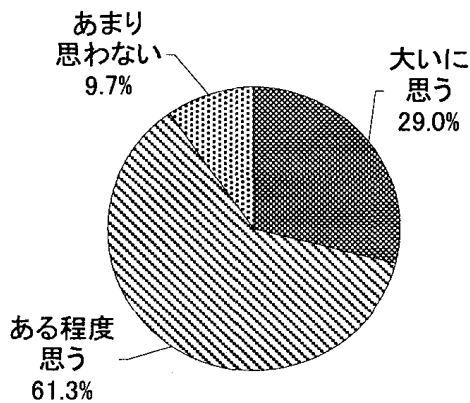
このような授業は楽しかったか



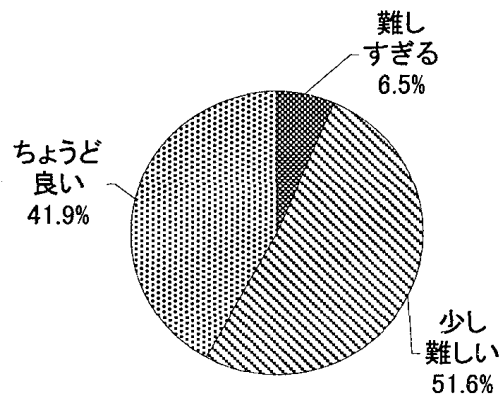
このような授業を希望するか



リスニング力の向上に役立つか



教材のレベルはどうだったか



#### 4.2 所属大学での評価

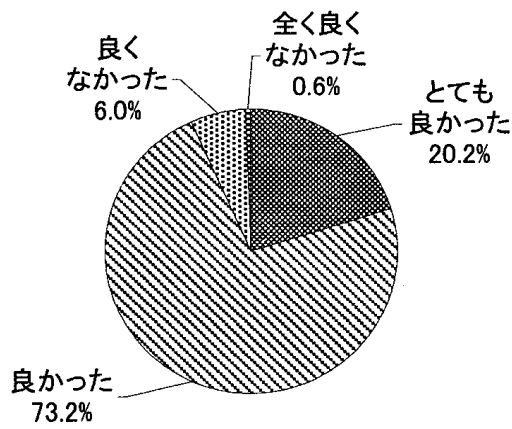
次に筆者の所属する大学（1年97名 2年65名）での評価を示す（次ページ参照）。まず「このような授業をどう思うか」という質問には9割以上の学生が「良かった」という評価を与えた。自由記述の感想では「今まで日本文学を英語で見たことはなかったので新鮮でよかった」、「日本文学を字幕のアニメとして見るのは何か不思議な感じはしたが、印象に残って面白かった」など、学習

が新鮮で楽しかったという意見が多く見られた。一方で「どちらかといえば、より生きた英語が聞ける欧米の作品が見たい。大学生になってアニメを見るのは抵抗を感じたが学習上わかりやすいのでよいと思う」、「わざわざ日本文学にこだわらなくてもいいと思う。でもリスニングのためにはよいと思うので映画は続けて欲しい」といった折衷的な意見も若干あった。否定的意見には「BGMが切れたりしていて聞き取りにくかった部分があったのが残念だった」という意見に代表されるように、英語音声を吹き込む際の技術的な問題に対する指摘があった。これは今後の検討課題として考えたい。

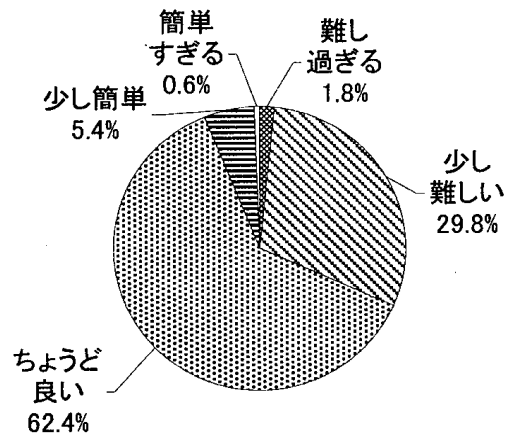
教材の難易度に関しては「ちょうど良い」が62.5%を占め、作品を最後に通して見たとき「どのくらい聞き取ることができたか」という質問には60~79%と答えた学生が半数近くいた。この結果は先にも述べた理解可能な教材(70%程度)という観点からすると、ほぼ許容範囲に収まる。当初本教材はこの学習集団にとって内容的に易しすぎるのではないかという危惧もあったが、アンケート結果からそのようなことはなく、学習者は「面白い」、「楽しい」という強い動機付けと、「理解できる」という安心感で「情意フィルター」が軽減されたことにより、英語学習に集中できたようである。このことは自由記述の、「こういう作品を使ってリスニングの学習をするのは苦痛にならないのでいいと思った」、「リスニングは難しいが、アニメなどを使うと分かりやすい」、「日本文学アニメに英語はかなり mismatch だと思ったけど、リスニング力などをつけるには良いと思った」、「最後に全部通してもう一度見たときには、かなり聞き取れるようになっていた」等の意見に反映されている。ただし、本教材は「リスニングの向上に効果的か」という質問に対しては9割近い学生が効果的であると答える一方で、スピーキング面に関してはその効果に否定的な回答も30%近くあり、授業方法を含め今後の課題が残った。字幕を大きくしたことに対しては肯定的意見がほとんどであった。また、全体が25分の作品であることへも肯定的な意見が大半を占め、また学生が短編を望んでいるという先行研究を裏付ける結果となった。



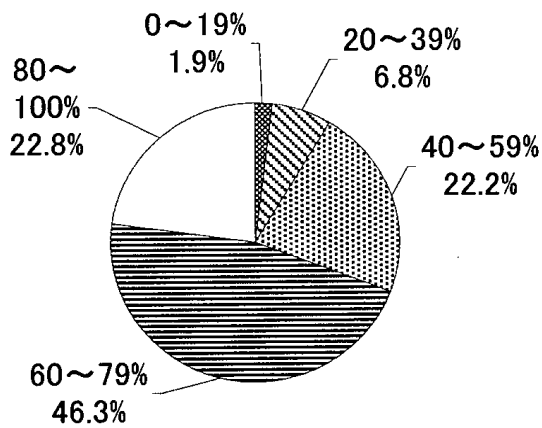
このような授業をどう思うか



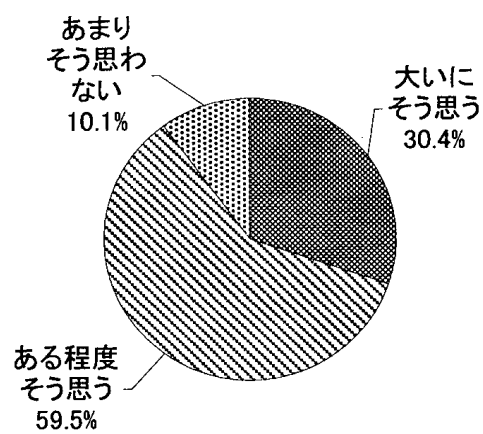
内容の難易度は



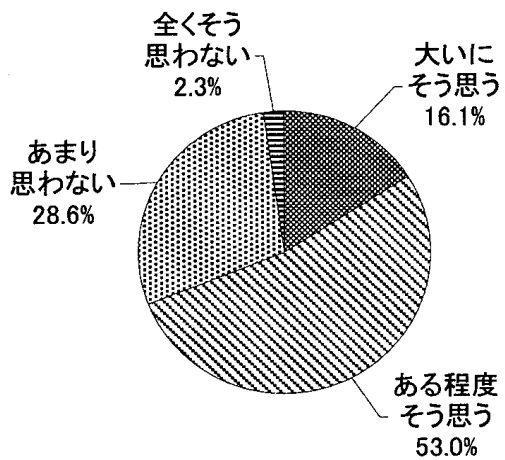
どのくらい聞き取ることができましたか



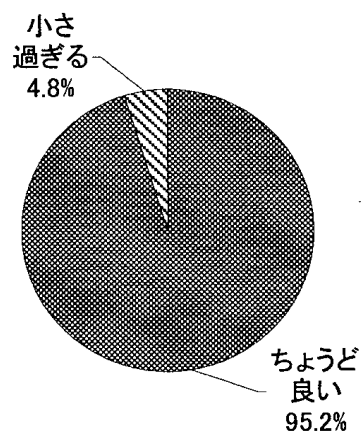
リスニングの向上に効果的か

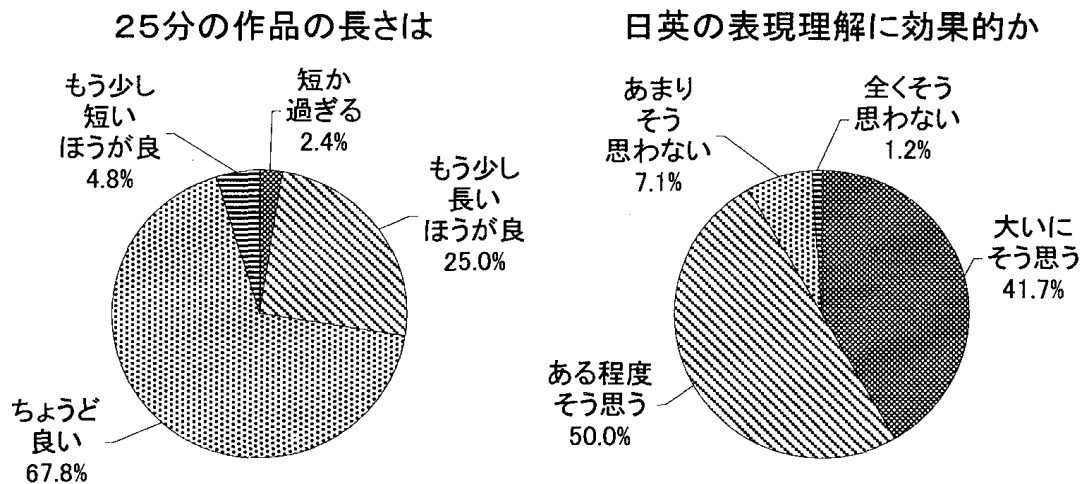


スピーキングの向上に効果的か



字幕の大きさは





「日英の表現理解に効果的か」という質問に対しては9割以上の学生が肯定的に答えた。特に「大いにそう思う」と答えた学生が41.7%にのぼることからもこのような学習方法が「楽しい」だけでなく二つの言語の言語学上の違いを比較する上で非常に効果的であるということを示している。自由記述の中では、「日本語と英語の表現の仕方が思っていたより違っていたのでびっくりした」、「この言い方って英語でこう言うのかという発見があったのでよかった」、「日本語と英語の表現の違いが感覚的に身に付けることができたと思う」、「この映画を翻訳した人と自分が解釈したのと少し違ったところがあり勉強になった」、「碁で『あなたの番ですよ』が、“Your move.”なのだと初めて知った」などがあり、日本的な表現が英語でどう表現されているかを知ったときの驚きと発見についてのものが中心であった。最後のコメントにあるように日本語的な表現と英語の表現が対照的なものは他にもいくつか見受けられる。例えば主人公が天城トンネルを抜け踊子の一行と合流する場面では、栄吉の「足が速いですね」という比喻表現が英語では“You're a pretty fast walker.”という名詞化された表現になっている。Seidenstickerの翻訳でも“You're quite a walker.”となっているが、このような表現の違いは日本語との比較無しにはなかなか気がつかない。

Eikichi: いいあんばいに晴れましたね。 We're lucky it cleared up.

Mizuhara: え、ええ。 Yeah.

Eikichi: 足が速いですね。 You're a pretty fast walker.

Mizuhara: いえ、別に。 Not really.

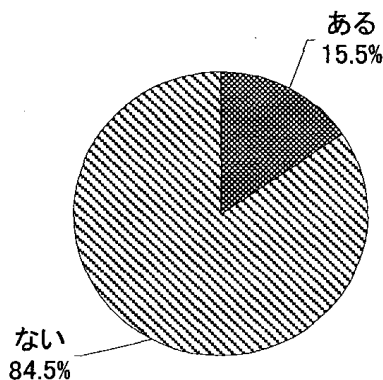
また一緒に旅をしようと踊子の母親が主人公を誘う場面での「旅は道連れ世は情け」という諺がどう英語に翻訳されているかも学生の興味を引くところである。

Eikichi: お母さん、この方はお連れ Mother, he said he'd like to travel with  
になりたいとおっしゃるん us.  
ですよ。

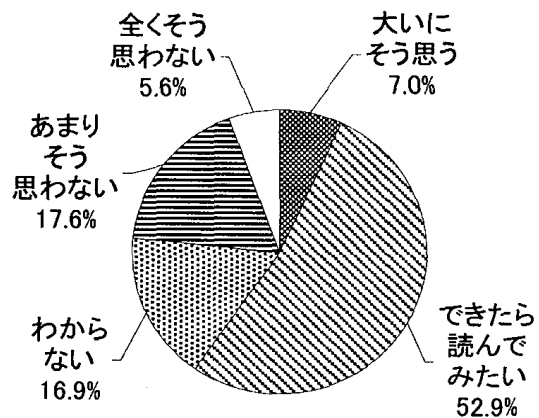
Mother: それはそれは。旅は道連れ Journeys are quick when you travel  
世は情け。私たちのような with friends. It will certainly make the  
ものでも退屈しのぎにはな trip more interesting. Come join us.  
りますよ。ま、上がってお  
やすみなさいまし。

最後に学生がどのくらい日本文学を読んでいるかを調べてみた。『伊豆の踊子』を読んだことのある学生の割合は15.5%にとどまり、予想以上に少ないものであった<sup>(注2)</sup>。更にこの授業を受けて「原作を読んてみたくなかったか」という質問には「読んてみたい」と答えた学生が6割程度いた。自由記述でも「アニメで見ると興味もわいてくるので、機会があつたら原作を読んてみたいと思つた」という積極的な感想もいくつか見受けられた。このことは学生がこの取り組みから何らかの刺激を受け、日本文化に対する興味を持った結果であると理解したい。

今までに読んだことがあるか



原作を読んてみたいか



## 5 まとめ

今回の取り組みでは、まず英語音声のない英語字幕だけの映画でも教材化が可能であることを示し、更に日本文学を使った映像教材が英語学習にとって大変有用なものであることを確認した。特に英語のリスニングに慣れていない大学入門期の学生や、英語に対して苦手意識を持っている学習集団に対して楽しみながら理解可能なインプットが大量にできるという点で本教材は優れていると言える。これは決して一般の洋画を授業で使用することを否定するものではなく、よりオーセンティックな洋画を授業に導入する場合の前段階の教材として効果的であるという意味であることを確認しておく。

また本教材は短編なので学習者の集中力が持続し、同時に既存のカリキュラムへと柔軟に組み込むことができることも大きな利点である。更にこのような取り組みは学生に日英の表現の違いについて積極的に理解させる良い機会をもたらすこともわかった。石川庄之助は『伊豆の踊子』の対訳本のはしがきで次のように述べている。

「訳文の生み出す世界と原作から読み取る世界が、正確に重なり合わないことがあるとしても、むしろそれが当然であって、読者はあらためて翻訳のもつさまざまな問題に目を開かれることとなろう。日本語らしい日本語の原作と、英語らしい英語の訳本と、その二つが平行しながらできるだけ接近する、その距離のせばまりとひろがりに注意するうちに、読者はこの二つの言語についての貴重な反省をするという、副産物的な収穫もあるはずである。」

邦画を使った英語学習は、日本語という視点から英語表現を観察することで両者の特質や発想の違いを学習者に気づかせてくれる。別の言い方をすれば、学習者は異次元の言語である英語を母国語である日本語との対比を通して自己の日常世界と関連付け、内在化させることが可能であると言えるかもしれない。このことは自分の考えや自文化を英語で表現する際にとっても重要なことである。異文化理解教育は海外の文化や言語に関する知識を教えるだけでは成り立たない。それと合わせ日本文化を世界に発信する自己表現能力を養うことも大切な側面である。また今回の取り組みのもうひとつの副産物的として、学習者に日本文学に対する興味を少しは喚起できたことが挙げられる。それは自らの文化に対する評価を高めることにもつながり、ひいてはそのことが真の国際人とな

るために欠かすことのできない教養を身に付けることにつながってくればと期待する。

## 謝辞

本研究は、平成17年度熊本県立大学学長交付金事業から研究費の助成を受けた。ここに深く感謝するものである。

（注1）“Animated Classics of Japanese Literature” Original Japanese version 1986 Nippon Animation Co., LTD. English version 1994 Central Park Media Corporation.

（注2）その他の文学作品については、『坊ちゃん』（59%）、『舞姫』（23%）、『三四郎』（10%）、『潮騒』（5%）、『あすなろ物語』（2%）であった。

## 参考文献

- 秋山敏晴（2003）「映画を使った授業の基礎」『映画英語教育論』スクリーンプレイ
- 川端康成（1964）『現代日本文学英訳選集＜1＞川端康成「伊豆の踊子」』、E. サイデンス  
テッカー訳、原書房
- Krashen, Stephen D. (1985) Input Hypothesis Issues and Implication, Issues and Implications.  
New York: Longman Inc.
- Koike, T & D. Pullin & M. Sandkamp (2001) “The Interdependency of Context, Comfort, Critical  
Thinking, and Discourse: Using Videos in the EFL Classroom”, Teaching English  
Trough Movies, 6
- 小張敬之（1995）「映画と英語教育」『映画英語教育のすすめ』スクリーンプレイ
- 進藤三雄（1992）「Using Entertaining Materials -Using Video Software-」『リスニング教材の  
利用と開発』（平成3年度文部省教育方法等改善経費）沼津工業高等専門学校  
pp.110～115
- 鈴木英夫（1995）シンポジウム「映画利用のいろいろ」、『映画英語教育研究』1号
- 高橋 宏（1995）「映画を利用したリスニングの指導—英語嫌いからの解放」『映画英語教  
育研究』1号
- 多賀亜紀（2002）「英語吹き替え版映画を使用して行う日本語・英語比較授業—『魔女の  
宅急便』実践報告—」『映画英語教育研究』7号
- 瀧口 優（1995）「リーディングノート形式の映画授業」『映画英語教育のすすめ』スクリー  
ンプレイ
- 塚越博史（1995）「映画英語教育とニーズ分析」『映画英語教育研究』1号
- 松田早恵（2006）「児童文学とその映画版の併用授業」『映画英語教育研究』11号

## 資料 1

|    |                               |  |   |          |
|----|-------------------------------|--|---|----------|
| 1  | Monologue:                    | 一人伊豆の旅に出てから4日目。私は今ひとつの期待に胸をときめかせて道を急いでいた。もしかしたら天城七里の山道で、あの旅芸人の一行に会えるかも知れない。そんな自分の勝手な期待であった。    | I'd been ( ) through Izu for four days. I was filled with wonder and anticipation as I ran. Would I catch up with the minstrels, just ahead of me? I hoped so.  | be       |
| 2  | Kaoru:                        | どうぞ。   | Here.   | clear    |
| 3  | Mizuhara:                     | いや、いいです。   | Thanks, but I'm fine.   | find     |
| 4  | Kaoru:                        | でも(座布団を)どうぞ。   | Please ( ) a seat.  | have     |
| 5  | Mizuhara:                     | じゃあ。どうも。   | Thanks.   | hear     |
| 6  | Monologue (Mizuhara's voice): | 私がこの踊りに会ったのは、これで3度目であった。湯ヶ島に来る途中、湯川橋ですれ違ったとき、彼女はたいこを下げていた。それから2日後、私の泊まった宿屋にきて玄関の下敷きで踊るを見たのである。 | This was my third meeting with the dancing girl. I passed her on the ( ) to Yugashima. She had a drum. Two days later, I saw her dancing as I went into an inn. | interest |
| 7  | Landlady:                     | おやおやまあ。ずいぶんお濡れになっているじゃございませんか。お乾かしになりませんか。   | Goodness, you're ( ) wet! There's a fire inside. Why don't you come in and dry off?   | know     |
| 8  | Mizuhara:                     | 大丈夫です。   | No, I'm fine.   | longer   |
| 9  | Landlady:                     | さあさあ。これで温まりなさいまし。  | Come along. Here, this should warm you ( ).   | matter   |
| 10 | Mizuhara:                     | ありがと。あの連中はよくこのあたりにくるんですか。旅芸人の人たちですよ。さっき親しそうに話をしていたから。  | Thanks. Does that troupe pass through here very often? The minstrels. It sounded like you ( ) them.   | much     |
| 11 | Landlady:                     | ええ、毎年くるんです。最近じゃそんなには仕事ももらえなくなりましたが、物好きな客もいますからねえ。ああやって家族ぐるみで流して歩いているんですよ。                      | I see them every year. They haven't ( ) getting much work lately. Some people still like them. The whole family works together.                                 | really   |
| 12 | Mizuhara:                     | 家族ぐるみ?   | The whole family?   | soak     |
| 13 | Landlady:                     | 年かさの女は母親で、それに長男夫婦。娘の名前はかおるっていうんですがねえ。氣立てのいい娘です。  | The mother's there, along with her eldest son and his wife. The daughter's name is Kaoru. She seems like a nice girl.   | swim     |
| 14 | Mizuhara:                     | かおる?   | Kaoru?  | the      |
| 15 | Eikichi:                      | いいあんばいに晴れましたね。   | We're lucky it ( ) up.  | travel   |
| 16 | Mizuhara:                     | え、ええ。  | Yeah.   | up       |
| 17 | Eikichi:                      | 足が速いですね。   | You're a pretty fast ( ).   | walker   |
| 18 | Mizuhara:                     | いえ、別に。   | Not ( ).  | way      |
| 19 | Eikichi's wife:               | 高等学校の学生さんよ。  | He's a high school student.   | work     |
| 20 | Kaoru:                        | そのくらいのことを知っています。うちの島には学生さんがよく来ますもの。  | I know that. We get students ( ) the island.  |          |
| 21 | Mizuhara:                     | 島って、どこです。  | Island? Which one?  |          |
| 22 | Eikichi:                      | 大島です。  | Oshima.   |          |
| 23 | Kaoru:                        | 波浮(はぶ)の港。学生さんがたくさん泳ぎにくるわよね。  | Port Habu. A lot of students come for ( ).  |          |
| 24 | Mizuhara:                     | 夏にでしょ?   | In the summer, right?   |          |
| 25 | Kaoru:                        | 冬でも。   | In the winter too.  |          |
| 26 | Mizuhara:                     | 冬でも泳げるんですか。  | They swim there in the winter?  |          |
| 27 | Mother:                       | バカだねえこの子は。では、私たちはこれで。  | She's such a silly child! (laugh) Good-bye, then.   |          |
| 28 | Eikichi:                      | お母さん、この方はお連れになりたいとおっしゃるんですよ。   | Mother, he said he'd like to travel with us.  |          |
| 29 | Mother:                       | それはそれは。旅は道連れ世は情け。私たちのようなものでも退屈しのぎにはなりますよ。ま、上がっておやすみなさいまし。                                      | Journeys are quick when you travel with friends. It will certainly make the trip more ( ).  |          |
| 30 | Kaoru:                        | ど、どうぞ。   | Come join us.   |          |
| 31 | Mizuhara:                     | どうも。   | Here.   |          |
| 32 | Kaoru:                        | ごめんなさいまし。  | Thank you.  |          |
| 33 | Mother:                       | まあ、ほら。この子ったら。色気づいて。  | I'm sorry!  |          |
| 34 | Eikichi:                      | 宿がとれました。ご案内します。  | Here! What a little flirt! (laugh)  |          |
| 35 | Mizuhara:                     | 僕も、あの宿に泊めてもらえるのかと思っていましたよ。   | I've ( ) a place for you. Come on, I'll show you.   |          |
| 36 | Eikichi:                      | とんでもございません、あんな宿あなたのような方が泊まれるものじゃありません。もっとちゃんとしたところがありますよ。                                      | I was hoping there'd be room at your inn.   |          |
| 37 | Mizuhara:                     | 僕は構わないのに。  | Certainly not. It's no place for a gentleman like you. I'll show you a ( ) nicer place.   |          |
| 38 | Eikichi:                      | いい眺めでしょう。  | That doesn't ( ) to me.   |          |
| 39 | Mizuhara:                     | お世話をかけて、ありがとう。   | Nice view, isn't it?  |          |
| 40 | Eikichi:                      | いいえ、それに、今晚ここで仕事をする事になってるんですよ。ここのお湯はとてすばらしいですよ。   | It's excellent. Thank you.  |          |
| 41 | Mizuhara:                     | みなさん、ご家族なんだそうですね。  | It's no trouble. Besides, we'll be performing here tonight. And I ( ) the baths are wonderful.  |          |
| 42 | Eikichi:                      | はい、女房と妹と、それに母親の4人で気楽に働いています。   | You're all one family, aren't you?  |          |
| 43 | Mizuhara:                     | そうですか。   | Yes. My wife and I, my sister, and my mother. We enjoy ( ) together.  |          |
| 44 | Eikichi:                      | 私は身をあやまったらおちぶれてしまいました。妹にだけにはもったいい暮らしをしてほしいと思ってるんです。じゃ、私はこれで。                                   | I see.  |          |
| 45 | Mizuhara:                     | いいじゃないですか。少しゆっくりしていけば。   | I chose ( ) wrong path in life, so I'll always be poor. I'd like to hope that my younger sister can do better. Well, good night.                                |          |
| 46 | Eikichi:                      | いいえ、私どもはこれからが商売ですから。じゃ、これで、  | Can't you stay a little ( )?  |          |
|    |                               |  | No, we have work now. Bye.  |          |

## 資料 2

小テスト 伊豆の踊子 No2 No\_\_\_\_\_ Name\_\_\_\_\_ / 30

1. 子供だねえ、いつまでたっても。

You always ( act ) ( like ) ( such ) a child!

2. よかったら、ちょっと上がっていきませんか。

Would you like to ( rest ) for ( a ) ( while )?

3. かおる、早くお風呂にお入り。風邪ひくじゃないか。

Kaoru, ( get ) ( into ) the bath, or you'll ( catch ) ( cold ).

4. これから歩いたって、お客はありゃしないだろう。

I ( doubt ) we'll ( get ) any more work.

5. いらっしゃい。さ、どうぞ。 ( Be ) ( my ) ( guest ).

6. ではちょっと行ってきます。 We'll ( be ) ( back ) ( soon ), then.

7. 負けた。 ( You ) ( win )!

8. みんなを見てきます。 I'll go see ( how ) ( they're ) ( doing ).

9. 慣れてますもの。 ( I ) ( used ) ( to ) it.

10. こんないい気持ち、久しぶりです。

I ( haven't ) ( felt ) this good in a ( long ) ( time )!